

作成日：27.8.22

議事録作成者氏名：山浦

ON-PAM 企画委員会 第2回委員会議事録

日時	27年8月7日（金）13時～17時20分、8日（土）10時～17時		
会場	高知県立美術館（講義室）、蛸蔵、かつおゲストハウス、沢田マンション		
参加者数	33名（会員7名、一般参加23名、その他ゲスト等3名）		
企画担当	山浦、斎藤（努）	記録担当	伊藤彩
配布資料	プレゼン資料、高知県立美術館資料		

議事録内容

8月7（金）13時～ シンポジウム「オリンピックは地域振興の起爆剤と成り得るのか？ーオリンピック×芸術文化ー」

13:00-14:00 プレゼンテーション1 吉本光宏氏（株式会社ニッセイ基礎研究所 研究理事）

「2020年東京五輪ー文化プログラムによる地域活力の創出に向けて」と題し、2012年ロンドンオリンピックの事例を基にした話。

1. オリンピック・パラリンピックと文化
2. 2012年ロンドン五輪 文化プログラムの実績
3. 2020年東京五輪 文化プログラムの実現に向けた動き
4. 2020年東京五輪 文化プログラムのいくつかの私案

14:00-14:40 プレゼンテーション2 正野圭治氏（国際交流基金 企画部総合戦略課長）

「国際交流基金の取り組み」と題し、2020年までに開催する主催事業の紹介。

取り組みのキーワードは、

1. 交流の端緒を開く／裾野を広げる
2. 交流する担い手をつくる
3. 持続する交流の基盤をつくりだす
4. 新しい価値を創造する

（10分休憩）

14:50-16:00 ディスカッション&質疑応答（モデレーター：藤田直義（高知県立美術館 館長））

参加者からの質問に回答する形で進行。

質問：

1. 高知県がオリンピック・パラリンピックへの提案書を公開しているが、こういうのは反映されるのか？

答）地域版アーツカウンシルなどを立ち上げて働きかけていくのがよい。アイデアがあれば文化庁へ提案。

2. 2012年にロンドンで開催した文化プログラムのイベントは、有名な団体／アーティストによるものだったのか？

答) 参加者はそのイベントがオリンピック関連かどうか分からずに、知らぬ間に参加していたことが多かったようだ。例えば、スポーツとアートを掛け合わせた「コミュニティ・ダンス」(運動会でダンス)など、地域の草の根的なイベントなどもカウントされている。

3. ロンドンの地方都市はどのようなモチベーションで関わっていたのか？初めから観光客を増やすことを視野に入れた取り組みをしていたのか。

答) ほとんどのイベントの参加者は主に地元の人であった。大規模なイベントには海外からの参加者が多かった。ロンドンオリンピック後は観光客が増加したが、それは稀な結果であった。後のリサーチで、「若者にやる気を与えるイベントだった」と答えた人が80%。開催後に生まれた新しい価値観、出会い、経験はその後も残るということを視野に入れたい。

4. 人材の選定はどのようにしているのか？

答) アーティストはいるがそれを制作に結びつける環境がないのではないかという疑問がある。

5. 文化庁が提示している文化芸術アソシエイツとは？

答) 「文化力プロジェクト」を担える人材を育てるもの。地域アーツカウンシルを増やしていきたいという意思がある。民間からも声が挙がるといい。

(20分休憩)

16:20-17:20 参加者によるディスカッション (ファシリテーター：斎藤努 (ON-PAM 理事))

ルール：

- ・6~8名のグループ(4テーブル)に分かれてテーマに沿ったディスカッションを15分間行なう。
- ・話す人はテーブルの真ん中に置かれた小物を取って話し、話し終わったら小物を返す。誰かが話している間、他の人は意見を言うてはいけない。
- ・聞いている人は話の内容で気になったことをテーブルの模造紙に自由にメモする。
- ・15分経ったら、1名残してそれ以外の人は違うテーブルへ移動する。
- ・新しいメンバーで新しいテーマに基づき、15分間ディスカッションする。

テーマ：

1. 高知の魅力
2. 東南アジアから見た高知の魅力

まとめ：

テーブル1. 人の魅力。アーティストと地域を結び付けやすい土壌。

テーブル2. アクセスが悪いので目的がないと外から人が来ない。アジアというより、国内に向けて魅力をアピールすることから始めるべき。

テーブル3. 「よさこい」は総合芸術なので、「よさこい」でワールドカップやカーニバルのようなものを開催してはどうか。外国人移住者から発信するのもよい。

テーブル4. 本場の「よさこい」を売る。各地で開催している「よさこい」イベントとの差別化を測ることで本場を見に来てもらう。インドネシアでも「よさこい」が行なわれているという例

があったので、地方大会としてチームを本場に招聘すれば帰国後に高知の認知度が挙がるのではないかと。

8月8(土)10時～ 高知県立美術館ホール活動紹介、レジデンスアーティスト、ペーパームーン・パペット・シアター(インドネシア)の公開制作見学。(案内人:山浦日紗子(高知県立美術館ホールプロデューサー、ON-PAM 理事)) *会員のみ

美術館ホールの取り組み紹介プレゼン(30分)、ホール(能楽堂含め)や展示室などの見学。インドネシアの現代人形劇のアーティスト、イワン・エフェンディとマリア・トリスリスチャニ(ペーパームーン・パペット・シアター)による活動紹介プレゼン(1時間)と参加者との交流。

(車移動)

13時～ 近隣施設(蛸蔵、かつおゲストハウス、沢田マンション)の見学ツアー。(案内人:斎藤努(ON-PAM 理事)) *会員のみ

アートゾーン藁工倉庫にて藁工ミュージアム、蛸蔵(古い藁倉庫をリノベーションしたミニホール)を見学、NPO 蛸蔵理事である藤岡武洋氏による施設の説明。土佐バルにて参加者で昼食を取る。

かつおゲストハウスにて女将さんとして働く前田真希氏に内部を見学させていただく。前田真希氏の友達のアーティストなどが内装工事に関わっており、各部屋に色々な創作がある高知でも評判のゲストハウス。

沢田マンション(高知が世界に誇るセルフビルド建造物)を案内図に従って各自で見学。1Fのギャラリーroom38では2014年に奈良美智氏の展覧会も開かれるなど、昨今注目を集めている。